

11月 ^(例会) 個人 山行報告書			報告者	江頭	参加メンバー	CL; 亀山 SL; 金子 食糧; 竹内, 松中 監督; 藤田 会計; 長島 装備; 江頭
			報告日	11月15日		
山域	八ヶ岳	山行日	06年11月11日(土) ~ 11月12日(日)			
山名	赤岳					

山行目的	冬山合宿の偵察	コースタイム(天候: 天気図記号)
------	---------	-------------------

配布先	ルート図(地図を見て正確に)	11月10日(金)曇り 20:00刈谷(N駐) 22:00 恵那峡SA 24:00 八ヶ岳山荘P着 02:00 就寝 11月11日(土)雨 雪 06:00 起床/朝食 08:00やまのこ村(旧小松山荘)P発 09:00 南沢中間休憩 10:20 行者小屋着 11:30 発 12:30 文三郎尾根分岐上部(引返し地点) 13:40 行者小屋着 17:00 夕食 20:00 就寝	11月12日(日)曇り 04:15 起床 05:00 朝食 06:00 行者小屋発 07:00 地蔵尾根中間休憩 08:00 赤岳展望荘着 09:10 赤岳頂上着 10:30 行者小屋着 11:30 発 13:00やまのこ村P着 15:00 もみの湯発 16:30 諏訪湖SA解散
集会:10			
山行:1 リーダー			
原紙:集 会担当者			

2.5万分の1地図: 八ヶ岳西部・東部

< 偵察報告 >

金子、松中、竹内、長島、江頭、藤田、亀山の隊列で地藏尾根を20分ほど進んだであろうか、目指す稜線は今日もガスに没したと決め込んでいた我々の頭上、すなわち白み始めた横岳-赤岳のシルエットが、ふと気付くとモルゲンロートに浮かび、足もとの新雪がこれを受けてなんとも上品に薄桃に輝いた。二つ玉低気圧の通過とその後の本格的な冬型を承知で入山し、相当に厳しい山行を覚悟、まさしく前日はしくしくと降る冷たい雨の中を、泣きながら行者小屋まで、そして文三郎尾根分岐上部にして撤退を余儀なくされたほどの猛吹雪の洗礼、予報に違わぬ荒天が身に染みてしまった我々にあって、この黎明の演出がこれから用意されている奇跡の前兆であると気付いたメンバがいたのであるか？ 上空はすぐに曇天となり、全員黙々として地藏尾根を詰める。ダケカンバが目立つあたりでアイゼンを装着、程よくパックした、降ったばかりの粉雪を踏んでゆく。樹林から転じハイマツ帯、岩稜帯のクサリとハシゴの連続が始まる。エビのシッポが張り付いたクサリを掴んで攀じる。お地藏様が強風の中ひとりたらずむ稜線に出、凍りついて閉ざされた赤岳展望荘に迎えられ、ここで大休止。各自行動食などを口にする。赤岳のピークをめざして最後の登りに掛かったまさにその時であった、背後の赤岳-横岳を結ぶ稜線から伸びる尾根、佐久側、諏訪側ともに下界の錦秋、北を振り向けば渦巻くガスをフレームに横岳核心部、西には朝日の陰影を伴った白銀の中岳と阿弥陀岳が姿を現したのだ。天が与えてくれた歓喜、山の醍醐味ここに極まれり。ところが山頂での記念撮影を済ませる頃には再びガスに巻かれ、冬本番のような状況に。山頂から南方へ向け急峻な岩稜帯、続いて切迫感のある狭いレンゼ状の地帯も慎重に下る。そして前日の撤退地点、文三郎尾根分岐上部は風の通り抜け場所なのか再びあられ混じりの烈風を食らう。文三郎の金網状階段はところどころ溶接が外れていて、体重移動はゆっくりと。



2006.11.12.赤岳頂上にて

確認
(リーダー)
亀山
06.11.24

作成
(報告者)
江頭
2006.11.22

< リーダー所見 > 荒天が予想されていたので無理をせず、柔軟に行動しながら偵察を行った。本番に近い状況での偵察となり、地形や雪の付き方等、真剣に観察する事が出来たと思う。また、若手の参加者があり、行動中はもとより、テント内でも新鮮味と、教えたり教わったりで、楽しく充実した山行が出来たと思う。今回偵察した内容を、平地にて冷静に分析し、本番に臨みたい。冬山合宿がおおいに楽しみである。



地藏尾根



地藏尾根上部



稜線



展望荘、横岳



赤岳を目指す



赤岳山頂



赤岳山頂



赤岳南面上部下降

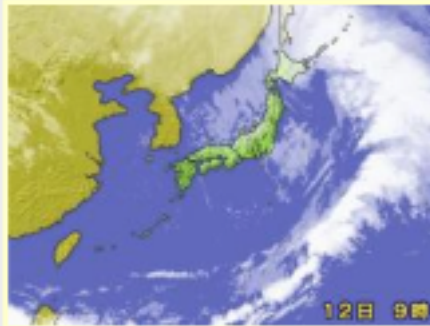
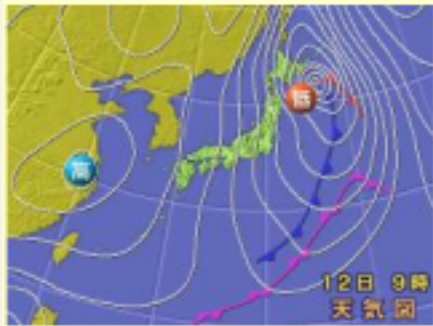


赤岳南面下降



美濃戸、カモシカ

2006年11月12日(日)



	天気(9時)	最低気温	最高気温
札幌	にわか雨	4.6℃	6.5℃
仙台	晴	8.3℃	13.1℃
新潟	にわか雨	6.5℃	11.7℃
東京	快晴	11.7℃	15.5℃
名古屋	快晴	9.1℃	13.2℃
大阪	曇	9.3℃	14.1℃
広島	晴	8.9℃	16.6℃
高知	晴	11.2℃	17.7℃
福岡	晴	12.7℃	16.1℃
那覇	晴	20.3℃	23.2℃

『札幌初雪 関東木枯らし』

低気圧が北海道の道東をかすめるようにオホーツク海へ。06時976hPa、12時口は972hPaまで発達した。低気圧近傍の道東では大雨。24時間降水量の日最大値は、根室で108ミリ(16:20まで)11月1日。

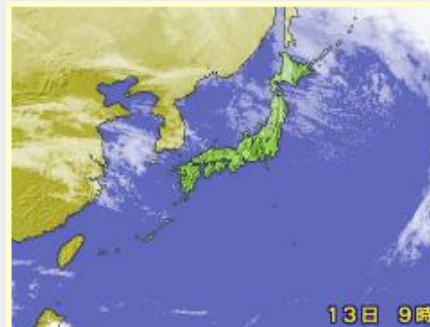
また、北海道を中心に風も強い。江差NW31.7m/s(07:52)、浦河WNW30.6m/s(12:40)、根室NW30.3m/s(10:03)、札幌NW26.8m/s(05:56)。

日本付近は冬型の気圧配置。低気圧の後面にあたる日本海には寒気流入に伴う曇、日本海側を中心に降水、北海道では平野部でも雪。09時、500hPa気温は秋田-32.1℃、輪島-30.7℃。「にわか雪」03時：稚内、09時：旭川、15時：稚内、旭川、寿都、19時：稚内、旭川、寿都、札幌など。「あられ」15時：札幌、江差、高田、18時：秋田、高田。「雪」03時：八丈島、09時：高田、福井など。

▲最低気温は9時まで、最高気温は21時までのデータです。

最高気温 南風が流れ込んだ道東以外は、平年を下回った所が多い。

2006年11月13日(月)



『初の10℃以下』

本州付近は九州の南にある高気圧に広く覆われ、朝から快晴の所多い。等圧線は北日本で混み合うが、強風の峠は越えた。各地で放射冷却が強まり、東京ではこの秋初めて最低気温が10℃を下回った。さらに、乾燥注意報もだされた。

初氷：水戸(平年と同じ、昨年と同じ)
初雪：浦河(平年比+7日、昨年比+4日)
初冠雪：白砂山(前橋)平年比+20、昨年比+21日
仙ノ倉山(前橋)平年比+21日、昨年比+21日
武尊山(前橋)平年比+13日、昨年比-18日
比良山(彦根)平年比-8日、昨年比-4日

▲最低気温は9時まで、最高気温は21時までのデータです。

最高気温 全国的に平年並みかやや低い。北海道では日中でも10℃以下。
旭川5.2℃(平年差-0.9℃)
青森12.5℃(平年差+1.3℃)
宇都宮15.3℃(平年差-0.5℃)
三宅島15.6℃(平年差-3.5℃)
金沢17.1℃(平年差+1.3℃)
大阪17.1℃(平年差-0.8℃)
西郷19.0℃(平年差+2.9℃)
阿蘇山8.8℃(平年差-1.9℃)

最低気温 西・東日本で平年を5℃前後下回る強い冷え込み。内陸では氷点下。
日光-3.3℃ 東京9.2℃ 河口湖-0.9℃
松本-2.4℃ 諏訪-1.5℃
軽井沢-2.5℃ 高山0.9℃ 京都4.2℃
津山2.7℃ 日田2.1℃ 人吉1.0℃